

支援機器相談シート

相談日 R4年1月14日

小学部 児童1

●保護者より
発声はあるが発語はまだないので、少しでもしゃべれるようになってほしい。そのために発語を促すものがないか知りたい。

●担任より補足
相談内容 実態：教育課程IV。簡単な指示理解はできる。毎日繰り返して行っていることは覚えてできるようになってきた。うれしいときは喜び、嫌なときは怒ったり拒否したりできる。水分補給などこちらから尋ねると手を出したり顔を背けたりして意思表示ができる。歩きに行きたいときは手を差し出してくる。発声はあり喃語が出ることはあるが、意味のある言葉はまだ聞かれない。名前を呼ばれるとうれしそうな顔をして、手を上げたり相手と手を合わせたりして返事をする事ができる。タイミングよく声が出ることもある。

相談内容：自分の気持ちを相手に伝えるための、言葉の代替になる支援機器や工夫、発語を促す支援方法や支援機器を知りたい。

★発語を促す支援方法を決めるために…

- 実験的に様々なアプローチを繰り返し、その差異を観察し、本人の力や好きなこと・嫌いなことをあぶりだし、確認する。

↓

- ・興味関心のツボを見つける＝コミュニケーションツールを適切に選ぶために必要
- ・意識的な声掛けを行う＝知人と他人の区別がついているかを確認する。
- ・環境設定を変化させる＝環境や設定が変わっても、同様に理解できているか、選択できているかを確認する。

相談結果

どこに興味をもって、どこに反応しているか

何を理解しているか、明確にする

得意なこと、苦手なことの発見

正しい選択をしているか。環境設定が変わっても、理解や選択ができるか。

観察

↓

実態把握がとても大事

★言葉へつなげるために

- 「実物と名前（言葉）を結びつける→シンボルマークに置き換える→写真を理解する→言葉を聞いて、その物と交換ができる」というように、発展させていく。

- 情報を与える側が、取捨選択する＝情報過多を防ぐ
部分に目が行きすぎないようにする

相 談 結 果	<ul style="list-style-type: none">○本人を観察し、「いやだな」と感じているものは排除する。 →理由がどこにあるのかを探る。【例】服を着たがらないのは肌触りがいや？絵が子供っぽくていや？ ○情動行動（足で蹴る、机を叩く、体を揺らす etc…）を観察する。 →バランスを取るためなのか、体の位置を確かめているのか、振動を楽しんでいるのかなど。 ○始まりと終わりをはっきりさせる。 →本人に分かりやすいかたちで、始まり・終わりのサインを明確にする。 例えば、片付けカードを手渡す、箱にしまう、などワンアクション入れると分かりやすい。 ○先入観を捨てる。 →児童に対して、経験上の思い込みでストーリーを組み立てがちなので、観察する側（教師）の児童に対する思い込みを排除する必要がある。
------------------	--